

Shinano Male Choir

創価学会しなの合唱団
第30回定期演奏会

会場 荒川区民会館
サンパール荒川 大ホール

日時 2024年5月19日 ⑩
15時00分開演 (14時15分開場)

主催：創価学会しなの合唱団

後援：JCDA日本合唱指揮者協会／東京都合唱連盟

本日は第30回定期演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。

創価学会音楽隊は1954年5月に師匠・池田先生(当時:青年室長)の発案で結成され、今月で70周年の佳節を迎えました。吹奏楽を中心に管弦楽、マーチング、軽音楽、和太鼓や合唱など、国内外に100以上の楽団があり、いずれも学生・社会人で構成されています。現在は各種コンクールやイベントへの出演をはじめ、日本各地での激甚災害からの心の復興に向けた「希望の絆」コンサートの開催等、幅広く活動を行っております。

創価学会しなの合唱団は結成55周年を迎える本年、日頃より応援してくださる皆様のおかげで、30回という節目の定期演奏会を開催することができました。山川実行委員長を中心に、これまで池田先生が展開してきた平和・文化・教育運動に連なる弟子の決意として、演奏会のテーマを「後継」と定め、選曲や制作物等の準備を進めていた矢先、昨年11月15日に池田先生が逝去しました。改めて“今こそ、弟子として師匠の精神を受け継ぐ時”と捉え、演奏会を大成功させようと団内で話し合いを重ねました。

今回、第4ステージで披露する「誓いの青年よ」は、山本伸一(池田先生のペンネーム)の作詩で、10年前にしなの合唱団が制作に携わらせていただいた大切な学会歌です。誕生より10周年を記念し、男声四部合唱版に編曲いたしました。池田先生は、生前に作詩を手掛けた最後の学会歌であるこの曲の中で「青年」「後継」と書いて「きみ」と読み、全ての弟子に「不二の生命よ」と呼び掛けられました。後継者として師匠の精神を継ぎ、世界の青年の連帯で、平和な地球を築くとの誓いを胸に、これからも活動を続けてまいります。

創価学会しなの合唱団 団長 細田英輝

Shinano Male Choir



- 1958年12月 — 「創価学会男子部合唱団」結成
- 1969年9月 — 池田先生より「しなの合唱団」と命名
- 1994年11月 — 「第36回 都民合唱コンクール」に初出場
- 1995年10月 — 中国・北京にて開催された「日中青年親善コンサート」に出演
- 1997年10月 — 「第52回 東京都合唱コンクール」に初出場
- 1997年11月 — 「第39回 都民合唱コンクール」にて第1位 獲得
- 2005年10月 — 「第60回 東京都合唱コンクール」にて金賞・東京支部長賞を受賞
- 11月 — 「第58回 全国合唱コンクール」に初出場し、銀賞を受賞
- 2006年11月 — 「第6回 東京男声合唱フェスティバル」に出演
- 2007年11月 — 「第60回 全日本合唱コンクール」にて、金賞・日本放送協会賞・カワイ奨励賞を受賞
- 2008年3月 — 福島県・郡山市主催の「第13回 水と緑の全国音楽祭」に出演
- 2009年6月 — 「第10回 北とぴあ合唱フェスティバル」に出演
- 2010年8月 — 「軽井沢合唱フェスティバル2010」に出演
- 2013年1月 — 「Nouvelles Rencontres ～新しい出会い～」に出演
- 4月 — 「Tokyo Cantat 2013 紅白合唱合戦」に出演
- 2014年3月 — SOKAグローバルアクションの一環として「希望の絆コンサート」を開始
福島県・福島市の「松川第一仮設集会場」にて、第1回公演を開催
- 3月 — 福島県・郡山市主催の「第19回 音楽都市こおりやま全国合唱祭」に出演
- 2015年11月 — 「第68回 全日本合唱コンクール」にて、金賞・長崎県教育委員会教育長賞を受賞
- 2017年7月 — 「第11回 中野島音楽祭」に出演
- 2018年3月 — 宮城県・多賀城市にて開催された「絆づくりコンサート」に出演
- 2019年9月 — しなの合唱団 結成50周年を迎える
- 2021年3月 — オンライン(YouTube)による「希望の絆コンサート」を開催
- 2022年9月 — 「青年福光サミット」に出演
- 2024年5月 — 「第30回 定期演奏会」を開催

※活動の一部を掲載しています





しみず けいいち

清水敬一 [指揮者] *Conductor*

1959年5月東京生まれ。1982年3月早稲田大学理工学部電気工学科卒業。指揮法を遠藤雅古、V.Feldbrill、合唱指揮を関屋晋の各氏に師事。現在十数の合唱団の指揮を任される。各地で合唱とオーケストラのための作品のコーラスマスターを務める一方、初演した現代作品も数多い。国内外の音楽祭・作曲コンクール・合唱コンクールの審査員を歴任。現在、JCDA日本合唱指揮者協会理事、東京芸術大学附属音楽高等学校講師。著書に『合唱指導テクニック』(NHK出版)、『合唱指揮者という生き方 私が見た「折々の美景」』(アルテスパブリッシング)。月刊『教育音楽』(音楽之友社)誌上にて《折々の美景》連載中。

ささぐち けいご

笹口圭吾 [指揮者] *Conductor*

大東文化大学文学部卒業。洗足学園音楽大学附属指揮研究所修了。指揮法を秋山和慶・河地良智、ピアノ・コレペティションを島田玲子・橋本智紗、合唱指揮を清水敬一・清水昭の各氏に師事。関東各地で17合唱団の常任指揮者を任される。創価学会しなの合唱団を指揮し、全日本合唱コンクール全国大会にて3年連続の金賞、並びに特別賞受賞。江東少年少女合唱団の指導が評価され、江東区文化コミュニティ財団功労賞を受賞。一般財団法人民主音楽協会主催「はじめての合唱指揮ワークショップ」をはじめ、各地の指導者講習会の講師を歴任する。江東区文化センター講師、NHK前橋カルチャー講師、JCDA日本合唱指揮者協会理事、並びに事務局長。



まえだ かつのり

前田勝則 [ピアニスト] *Pianist*

山口県に生まれる。1998年東京学芸大学教育学部芸術課程音楽専攻卒業。2001年東京芸術大学大学院音楽研究科修了、修了時にNTTドコモ奨学金を授与される。ピティナ・ピアノコンペティションデュオ部門特級最優秀賞受賞をはじめとして、多摩フレッシュ音楽コンクール、日本室内楽コンクール、吹田音楽コンクール、大曲新人音楽祭コンクール、かずさアカデミア音楽コンクールなどに上位入賞。また、NHK-FM「土曜リサイタル」、東京文化会館新進音楽家デビューコンサート、ABCフレッシュ・コンサート、日演連推薦／新人演奏会など、多くの演奏会に出演。大阪フィルハーモニー交響楽団、広島交響楽団、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉と協演。これまでに、佐川愛子、徳万良子、石橋史生、植田克己の各氏に師事。現在、ソロ、室内楽、及び声楽・合唱のピアニストとして活発な演奏活動を繰り広げている。



おぬきいわお

小貫岩夫 [ヴォイストレーナー] *Voice Trainer*

同志社大学卒業後、大阪音楽大学卒業。同志社時代は同志社グリークラブに所属しソリストとして一時代を築いた。音大在学中の95年「魔笛」タミーノ役に抜擢され、テオ・アダムと共演しデビュー。この成功により翌年、ケムニッツ市立歌劇場(ドイツ)に招聘出演し、二期会、新国立劇場を中心に活躍。07/10年二期会「魔笛」タミーノ役(実相寺昭雄演出)、11年佐渡裕プロデュース「こうもり」アルフレード役などで喝采を浴びた。近年は立て続けに二期会のオペレッタで主役を歌い、なくてはならない存在となっている。コンサートでも、主演オケとの共演で高い評価を得ている他、テレビ・ラジオにも度々出演。2010年から毎年、東京と大阪でリサイタルを開催し好評を得ている。2013年上皇上皇后両陛下御親覧のチャリティボールで演奏し、お言葉を賜る他、フィレンツェではイタリア元首相夫妻主催のコンサートに招かれた。合唱の指導者としても関西学院グリークラブ、慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団、立教大学グリークラブ男声、同志社グリークラブ、法政大学アカデミー合唱団などのヴォイストレーナー、大阪外国語大学グリークラブOB(東京)の指揮者として活躍している。二期会会員。東京藝術大学オペラ専攻非常勤講師。



かわぐち さ や か

川口紗弥加 [司会] *Master of Ceremonies*

東京都出身、俳優。'23年出演した縦型ショートフィルム『レンタル部下』(上田慎一郎監督)がカンヌ国際映画祭×Tik Tok Short Filmコンペティションにてグランプリ受賞。最近の主な出演作に、映画『ダブル・ライフ』(余園園監督)、『ほどけそうな、息』(小澤雅人監督)、ドラマ『ポケットに冒険をつめこんで』『雪女と蟹を食う』『ゲキカラドウ』、CM『doda X』等。
WEBSITE: <https://tomoessayakawaguchi.com/>



むら た なお き

村田直樹 [司会] *Master of Ceremonies*

京都府出身。高校3年生の時にダンスの大会で日本一に。映画『日本のいちばん長い日』(原田真人監督)でデビューし、映画・ドラマを中心に活動している。主な出演作に、ドラマ『今日から俺は!!』、日テレ『踊る!さんま御殿!!』など。『踊る!さんま御殿!!』では、再現VTRの俳優を9年間務めている。2024年は主演映画が公開されるなど、活躍の場を広げている。

第30回定期演奏会のテーマ「後継」。

このテーマを表現するため、チラシ・パンフレットにデザインコンセプトを設けました。

コンセプトは「ポラリスと黎明」。

ポラリスとは、ラテン語で「北極星」を意味します。

古くから方位を示す道標として人々を見守ってきた、天で唯一動かない星です。

黎明とは、夜明けや明け方の意味。

転じて「何かが始まろうとすること」を指します。

“私たちしなの合唱団がポラリスのような道標となる率先垂範の
人材へと成長し、新時代の黎明となる本年を勝ち飾っていく”

という確固たる決意を表しました。

お手元のチラシを左手に、パンフレットの表紙を右手にして並べていただくことで、
一つの風景が浮かび上がります。

どんなに遠く離れていても、隔たりはなく、同じ空の下で繋がっている。

そんな些細なメッセージも込めて……。

私たちの歌声が、あなたを照らす太陽に、明日を指し示す希望の光になりますように。

1st Stage

大岡 信をうたう

指揮: 笹口圭吾 / ピアノ: 前田勝則

男声合唱曲集「朝の頌歌(ほめうた)」より

2.美術館へ

作詩: 大岡 信 / 作曲: 木下牧子

男声合唱とピアノのための組曲「ハレー彗星独白」より

3.ハレー彗星独白

作詩: 大岡 信 / 作曲: 鈴木輝昭

2nd Stage

懐かしのクラス合唱曲

指揮: 前田大法 / ピアノ: 居田雄一

男声合唱曲集「地平線のかなたへ」より

春に

作詩: 谷川俊太郎 / 作曲: 木下牧子

時の旅人

作詩: 深田じゅんこ / 作曲: 橋本祥路

男声合唱のためのカンタータ「土の歌」より

第七楽章 大地讃頌

作詩: 大木惇夫 / 作曲: 佐藤 眞

Intermission

3rd Stage

静かな雨の夜に

指揮: 清水敬一 / ピアノ: 前田勝則

男声合唱とピアノのための組曲

静かな雨の夜に

作詩: 谷川俊太郎 / 作曲: 松下 耕

4th Stage

後継

指揮: 熊倉 顕 / ピアノ: 前田大法

2つの男声合唱のための「**広布に走れ**」

作詩・作曲: 山本伸一 / 編曲: 杉野泰彦

ピアノと男声合唱のための「**世界広布の歌**」

作詩: 男子部有志 / 作曲: 有島重武 / 編曲: 杉野泰彦

誓いの青年よ～男声四部合唱～

作詩: 山本伸一 / 作曲: 音楽隊有志 / 編曲: 関口孝明

1st Stage 大岡 信をうたう

指揮: 笹口圭吾 / ピアノ: 前田勝則

男声合唱曲集「朝の頌歌(ほめうた)」より

美術館へ 作詩: 大岡 信 / 作曲: 木下牧子

生まれてはじめて

美術館に入った日のこと

おぼえてゐるのは

いつのまにか息をひそめて

ろう
廊から廊を伝つてみたこと

かた なら かべ
肩を並べて壁に立つ

たくさんの絵のなかに

ときどきじつと

ぼくを見つめてゐるものがゐた

※それがぼくをふる慄へさせ

ぼくをよ酔はせた

かなた
彼方からの

ぎょうし
凝視の気配が

がんぜん きょり
眼前の絵からぼくまでの距離を

言ひやうのないはる遙けさで満たし

ぼくはそこでは

いっしゆん
一瞬に千里を飛ぶ

ゆめ
夢うつつの

歩行者だつた

見ることは

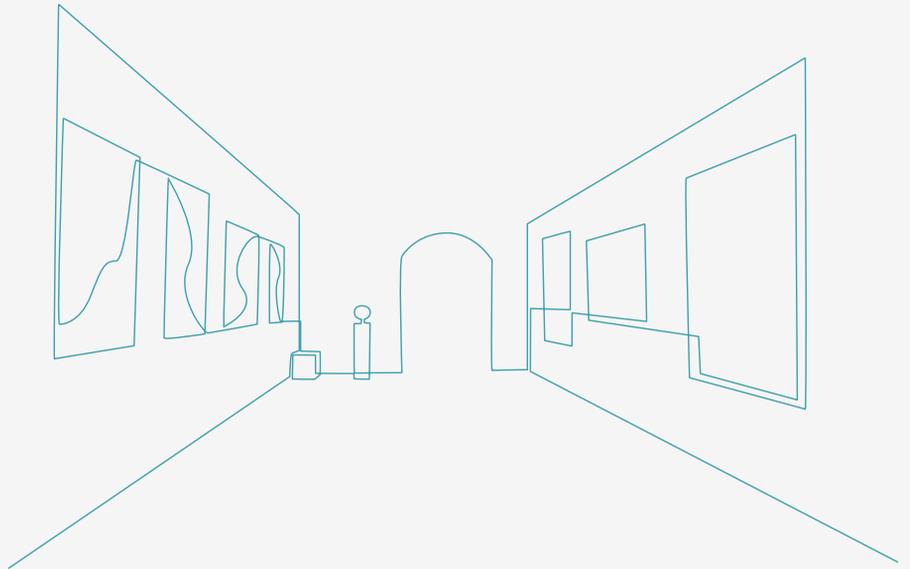
見られることと

そのとき知つた

生まれてはじめて

美術館に入った日のこと

※作品の都合上「それが」が付加されています。



美術館の厳かな静けさと、初めて美術作品に触れることで感じる高揚感とのコントラストを巧みに表現した「美術館へ」。詩人・大岡 信は美術に造詣が深く、現代美術との関わりも多かった人物でした。詩の中には、美術史や美術館に対する羨望や慄きが散りばめられています。“見ることは見られること”という独特な視点からも、美術への愛情や敬意を汲み取ることができるでしょう。美術館を訪れるときのような新たな発見の旅へお連れします。大岡 信の世界を存分にお楽しみください。

Lyrics/Program notes

男声合唱とピアノのための組曲「ハレー彗星独白」より

ハレー彗星独白 作詩：大岡 信 / 作曲：鈴木輝昭

おれがあのかちな星に
近づく時のお祭り騒ぎはどうだ

それに引き替へ
おれが見えなくなつたあとの
連中の忘れつぶりのみごとさと来たら

七十六年ぶりの彗星接近
だつて？
笑はせるぜ おれは接近なんざしちやみない

機嫌よくおれが滑つてゆく通路に
ときどきふらふら近寄つてくる
あの目障りな落ちこぼれの星
あの小うるさい住人どもの
言つたりしたりすることと来たら

エゴイストらめ

お祭り騒ぎがすめば忽ち
何でも彼でも書きこんである
年表とかいふ雑な過去帳に
文字一行でこのおれを整理しくさる

やつらだけに通用する
時間とかいふ範疇の中で
おれは過ぎた事件として
片づけられてあるらしい

やつらはおれがどこへ去つたか
知つてゐないのか たしかに
やつらは知つちやあゐないのだ

おれが住んでる所では
何事にもあれ何ひとつ
過ぎ去ることは決してない

おれはいつも
やつらにとっては不安に満ちた
未来といふ空間から
やつらの前に
ときどき姿を顕はしてるに
すぎないのだ

この次は軌道をずらし
ぬーッと 突然
目の前に
大接近してくれようか

1986年2月、ハレー彗星が地球に接近した際に書かれた詩集が「ハレー彗星独白」です。この作品は、ハレー彗星を擬人化して語り手とし、自身の存在意義や人間との関係について語っています。接近によって人間の歴史や文化に影響を与えたことを誇りに思いますが、同時に人間の愚かさや残酷さを嘆きます。力強く、でもどこか寂しげに鳴り響くピアノの音色は、彗星の感情や複雑な思考を表現しています。この作品を通して、ハレー彗星の視点から人間の歴史や文化、そして未来について深く考えさせられるでしょう。次の接近は2061年7月。37年後の未来に思いを馳せて。

プログラムノート執筆：佐藤正夫

2nd Stage 懐かしのクラス合唱曲

指揮：前田大法 / ピアノ：居田雄一

男声合唱曲集「地平線のかなたへ」より

春に 作詩：谷川俊太郎 / 作曲：木下牧子

この気もちはなんだろう
目に見えないエネルギーの流れが
大地からあしのうらを伝わって
ぼくの腹へ胸へそうしてのどへ
声にならないさけびとなってこみあげる
この気もちはなんだろう
枝の先のふくらんだ新芽が心をつつく
よろこびだ しかしかなしみでもある
いらだちだ しかもやすらぎがある
あこがれだ そしていかりがかくれている
心のダムにせきとめられ
よどみ渦まきせめぎあい
いまあふれようとする
この気もちはなんだろう
あの空のあの青に手をひたしたい
まだ会ったことのないすべての人と
会ってみたい話してみたい
あしたとあさってが一度にくるといい
ぼくはもどかしい
地平線のかなたへと歩きつづけたい
そのくせこの草の上でじっとしていたい
※大声でだれかを呼びたい
そのくせひとりで黙っていたい※
この気もちはなんだろう

[注釈]※～※は作曲の際、省略した。



新しい始まりを告げる「春」。芽吹く自然と共に、希望に満ちたメロディが春の暖かさを感じさせます。どこか遠くにいてしまいたい。でも、このままじっとしていたい。相反する気持ちと不安定さが青春を加速させます。この曲を聞いて抱く感情はなんなのでしょう。まだ熟していないオレンジのような、甘酸っぱいフレーバーのする演奏をお楽しみください。

Lyrics/Program notes

時の旅人 作詩：深田じゅんこ / 作曲：橋本祥路

めぐる風 めぐる想いによって
なつかしいあの日に 会いにゆこう
ぼくらは時の旅人
忘れかけていた日々
すべてのものが友達だった頃
汗をぬぐってあるいた道
野原で見つけた小さな花
幼い日の手のぬくもりが 帰ってくる
やさしい雨にうたれ
緑がよみがえるように
涙のあとには いつも君がそばにいて
生きる喜びおしえてくれた

男声合唱のためのカンタータ「土の歌」より

第七楽章 大地讃頌

作詩：大木惇夫 / 作曲：佐藤 眞

母なる大地のふところに
われら人の子の喜びはある
大地を愛せよ
大地に生きる人の子ら
その立つ土に感謝せよ

平和な大地を
静かな大地を
大地をほめよ たたえよ土を
恩寵のゆたかな大地
われら人の子の
大地をほめよ
たたえよ 土を
母なる大地を
たたえよ ほめよ
たたえよ 土を
母なる大地を ああ
たたえよ大地を ああ

今、君といっしょに
未来への扉開こう
あふれる希望をうたおう
めぐる風 めぐる想いによって
すばらしい^{あした}明日に会いにゆこう
なつかしい明日に会いにゆこう
ぼくらは夢の旅人
ぼくらは時の旅人

時間を超え、記憶をめぐる「旅」。切ないメロディと共に、過ぎ去った日々の美しい瞬間を振り返ります。学び舎での経験は、時を超えても心の中で生き続ける宝物。時代は変わっても思い出は変わりません。めぐる風に身を任せ、希望の明日へ。

大地の恵みと生命の輝きを讃える「歌」。豊かな自然と共鳴する力強いハーモニーが、我々の根源への敬意を表現します。変わらない価値。だからこそ、かけがえのないもの。地球という大地が平和になるように願いを込めて歌います。

プログラムノート執筆:堀家海舟

3rd Stage 静かな雨の夜に

指揮：清水敬一 / ピアノ：前田勝則

夢（「十八歳」より）

夜
古い記憶が
僕の夢を織った

それで夢は深い所へおちて行った

ながい間
雨は降り続き
小さな^{きてつ}蹉^つ踏にも
僕はやさしい言葉をもとめている

「あの時ああしておけばよかった」。誰もが一度は思う悔恨を、抒情的に表した詩。多感な時期に感じた蹉^つ踏(=挫折)は、どれだけ時間が経ってもふと思い出してしまうもの。ときに鮮明で、ときにくすんだ記憶の糸は、規則正しく交錯しながら一瞬の夢を織り出します。自分を肯定してくれる“やさしい言葉”を探しもつめて、今日も深い眠りに落ちるのです。曖昧でぼんやりとした夢うつな情景を、浮遊感のあるメロディーでお届けします。

かつてもっていた（「十八歳」より）

人はみな幼年時代をもっていた
かつて
しろいやつ
くろいやつ
あかियाつ
透明なのだってあったのだ

人はみな幼年時代をもっていた
かつて

九月の海でなくしたやつ
公園のベンチにおき忘れたやつ
銀座の雑踏で泥まみれになったやつ
思い思いにもっていた

人はみな幼年時代をもっていた
かつて
そして大事にしなかった
なくしてから悔恨は
よごれた手足をあらわさない

人はみな幼年時代をもっていた
かつて とおいむかしに

海の広さに息をのみ、夕暮れの空に目を奪われ、星の煌めきに感動した幼年時代。好奇心が原動力となり、何もかもが新鮮で世界が輝いて見えたあの頃は、今はもう遠い昔のこと。社会の荒波に揉まれ、悩み、怒り、笑い、日々が過ぎ去っていく中で、かつてもっていた純粋な童心は次第に忘れ去られてしまうのかもしれない。「幼い頃の一番の思い出はなんですか?」。そんな問いかけのような旋律で紡がれる、繊細な合唱をお聴きください。

十八歳（「十八歳」より）

ある夜
僕はまったくひとりだった

思い出をわすれ
本棚と雲に飽き
おさないいきりとかなしみと★
僕はにがく味わった

雨のふる夜
僕はほんとにひとりだった

★作曲では『かなしみとを』とした

詩人・谷川俊太郎が、若かりし頃に感じた“ひとり”という気持ちを飾り気のない言葉で表現した『十八歳』。自分を取り巻く環境を嘆き、孤独感に苛まれながら、行き場のない怒りと悲しみに唇を噛み締めた冷たい夜。ひとりの人間として、アイデンティティを思慮し、行き着いた答えとは……。複雑に絡み合うピアノと歌声からは、きっと感情のうねりにも似た音律が聴こえてくるはずです。

Lyrics/Program notes

天の断片（「十八歳」より）

雪のふる日
天は厳しく冷たく暗い

雪のふる日
天はかなしくくるしいのか

*

しんしんと しんしんと
ふりつもる 天の断片
けがれなく かなしみの天の断片

完全な六角の結晶は
それ自身^{いづく}厳しい天のおきて
それ自身美しい天のおもい

つづいている つづいている
はるかなる 天の断片
かぎりなく かぎりなく
くるしみの 天の断片

冬深い日の午後
言葉ない天のつかいに
言葉ない天のさびしさ

ふりつもる ふりつもる
しんしんと 天の断片
けがれなく けがれなく
かなしみの 天の断片

*

雪のふる日
天は寂しく冷たく暗い

雪のふる日
天はかなしくくるしいのだ

寒空の下、しんしんと降る純白の雪を見てあなたは何を思いますか？ 詩人はその1コマを、寂しい・悲しい・苦しいと形容しました。天がぼろぼろと崩れ、その断片が雪となって地上に降り積もる。ただ一つ美しいのは、ゆらゆらと落ちゆく雪の結晶だけ。暗く、冷たく、静かに笑う天の表情に、自分自身の心情を投影したのではないのでしょうか。ゆっくりと目を閉じ、感傷的でどこか清らかな音楽にじっと耳を傾けてみてください。

静かな雨の夜に（「二十億光年の孤独」より）

いつまでもこうして坐って居たい
新しい驚きと悲しみが静かに沈んでゆくのを聞きながら
神を信じないで神のにおいに甘えながら
はるかな国の街路樹の葉を拾ったりしながら
過去と未来の幻燈を浴びながら
青い海の上の柔かなソファを信じながら
そして なによりも
限りなく自分を愛しながら

いつまでもこうしてひっそり坐って居たい

斜字の部分は作曲されていません

詩人の処女詩集『二十億光年の孤独』に収録された一篇。しとしとと降る雨の音が、鼓膜を優しく震わせる夜。静謐で満ち足りた詩人の心には、十八歳のときの孤独感はもうありません。「いつまでもこうして坐っていたい」とは、“独り”の夜を超えて、ようやく自分という“一人”を愛せるようになったこと。眠りに落ちてでももう大丈夫。そこには“やさしい言の葉”が落ちていのですから。柔らかく、芯のある男声合唱ならではの音色で、温かく静かな雨の夜の情景を表現します。

プログラムノート執筆：谷 拓宣

4th Stage

後継

指揮：熊倉 颯 / ピアノ：前田大法

2つの男声合唱のための「広布に走れ」

作詩 / 作曲：山本伸一 / 編曲：杉野泰彦

広 ^{こうや} き曠野に 我等は立てり	旭 ^{あさひ} 日に燃えたつ 凜 ^{りり} 々しきひとみ	今ほとばしる 大 ^{たいが} 河の中に
万 ^{ばんり} 里めざして 白馬も堂々	慈悲と哲理の 地 ^じ 涌 ^ゆ の誉 ^{ほま} れ	語 ^つ り尽くさなん 銀 ^{ぎんば} 波をあびて
いざや征 ^ゆ かなん 世 ^{ゆうじゃ} 紀の勇者	あ ^{かくしん} あ革新の 英知は光る	歴史を創 ^{つく} るは この船たしか
我と我が友よ 広布に走れ	我と我が友よ 広布に走れ	我と我が友よ 広布に走れ

1978年(昭和53年)6月30日、荒川文化会館で開催された結成21周年を記念する学生部幹部会の席上、創価の学生達のために「後継を託す諸君のために後世に残る歌を作ってあげよう」と、池田先生が自ら作詩・作曲を手がけ誕生したのが「広布に走れ」です。後に、歌詞の2番にある「学徒の誉れ」を「地涌の誉れ」と変え、学生のみならず学会全体で歌われてきました。「歴史を創るは この船たしか」と励まし合いながら、創価の大船を世界の海原へ進めました。「後継」の私たちもまた師の遺志を継ぎ、広布のバトンを握りしめ、走ります。

ピアノと男声合唱のための「世界広布の歌」

作詩：男子部有志 / 作曲：有島重武 / 編曲：杉野泰彦

見よ雄渾の気は満ちて	若き理性の団結は	学 ^{うたごえ} 会健児の謳声は
白雪輝くヒマラヤの嶺	人類救う勝利 ^{きずな} の命綱	七つの海に轟き渡り
歴史を刻む黄河の流れ	正義 ^{はた} の旗幟に力あり	若き地涌の天翔ける
理想に燃えて我等征く	第三文明打ち建てん	ともに讃えん平和境
ああ 世界広布の意気高し	ああ 世界広布の時来たる	ああ 世界広布の鐘は鳴る

1963年(昭和38年)7月31日、東京の台東体育館で開催された男子部幹部会の席上、「師匠とともに、平和のために世界に羽ばたいていくような、気宇壮大な歌を作ろうじゃないか」と、新たな時代を象徴する歌として誕生したのが「世界広布の歌」です。「一人の蘇生なくして世界広布の実現はない」。池田先生の命を削った激闘によって世界広布への大道が開かれ、SGI(創価学会インタナショナル)は世界192カ国・地域にまで広がっています。「世界広布の鐘」を21世紀の大空に、いよいよ大きく、さらに力強く鳴り響かせていきます。

プログラムノート執筆：亀岡真広

Lyrics/Program notes

誓いの青年よ ～男声四部合唱～

作詩：山本伸一 / 作曲：音楽隊有志 / 編曲：関口孝明

誓いの^{きみ}青年よ ^{たびだち} 出発は今
広布の^{だいがん}大願 いざや果たさん
時代を変える 力はここに
地^{じゆ}涌の青春 挑み舞いゆけ

創価の心 嵐は誉れ
希望と正義の 哲理を語れ
人類照らす 英知はここに
民衆の城に 凱歌 轟け

信^{きみ}ざる後継よ ^{いのち} 不二の生命よ
師弟の勝利を ^{とわ} 永遠に飾れや
未来を^{つく}創る ^{スクラム} 連帯ここに
平和の地球を ^{ほし} 我らの勇気で
平和の^{ほし}地球を 世界の友と



この曲は、池田先生が最後に作詩された学会歌です。作曲は音楽隊にとの話を受け、作編曲スタッフと、しなの合唱団の代表メンバーで作曲した師弟不二の歌になります。今回は初めて男声四部合唱の編曲でお送りします。曲の冒頭は、ピアノによる前奏で、さらにコーラスによるヴォーカリーズは法華経に説かれる「衆生所有樂諸天撃天鼓 常作衆伎樂 雨曼陀羅華」(生あるものたちが楽しく遊ぶ場所であり、多くの天は天の太鼓を打って、常に多くの音楽を奏し、曼陀羅の花を雨のように降らせている)という、我々のいるこの場所こそ輝ける所と説かれ、地涌の菩薩が一人ひとり歓喜に満ちて歌っている様子を描いています。その中で、「誓いの青年よ」と「エターナルジャーニーウィズセンセイ」の旋律が現れ交ざり合う。師匠に呼び呼ばれて弟子が誓いで呼応する形になります。その歓喜の中の大歓喜から「誓いの青年よ」の歌は始まります。

1番は、「誓いの青年よ」との呼びかけに正しく呼応する弟子の思いで、力強い誓いを立てる様を表しています。2番は、仏法が大河、そして海を渡り世界へ広がりゆく姿を描いています。ピアノによる間奏は、ジェット機が空を飛ぶかのようなスピード感と、大地に根を張る力強さを共に表現しています。3番では、師匠から託されたバトン

を弟子が受け取り、師弟不二と異体同心で平和の地球を世界の友と築きゆく決意を表明します。

この楽曲の制作の最中、池田先生は逝去されました。今こそ誓いの青年よ!と、呼びかけられた私たち青年部が、世界の平和のため、文化の旗手として勝利の凱歌を轟かせて参ります。最後に、「誓いの青年よ」と「エターナルジャーニーウィズセンセイ」の両曲の作曲に携わらせていただいた者として、待ちに待った合唱アレンジをさせていただき、感謝の思いでいっぱいです。本日ご来場の皆さま一人ひとりの心に残る何かをお届け出来れば、作編曲としてこれ以上の幸福はございません。

関口孝明

Member list

TopTenor

伊藤翔平
大村 清 ★
亀岡真広 ★
佐藤伸一
佐藤正弘 ★
田中正明
濱先誠行
林 孝大
坂西純平
藤代光一
前盛 晶
山尾正之
山口正孝 ★
山崎晃義 ★

SecondTenor

赤星拓人
阿部竜太
池本清史
砂金伸隆
大岡正勝
近藤脩平
鈴木英一
鶴 大樹
菱田光明 ★
堀家海舟 ★
本名隆浩
宮瀬 弘 ★
山川裕一 ★
山口治男 ★
渡邊竹王 ★

Baritone

阿部健太郎
小川正明
恩徳秀信
鍛冶将也
柏木 真 ★
工藤大輝 ★
小柴宏徒/副代表
坂上貴浩
清水秀一郎
高野俊明
津本光一 ★
永井裕樹
細田英輝/団長
堀家金吾
本田正男
前田大法 ★
山根大知

Bass

青木晋一
石谷孝太
居田雄一
太田幸一
川口賢二 ★
熊倉 顕 ★
佐藤正夫 ★
穴戸創太 ★
鈴木正彰
大悲山直人
谷 拓宣 ★
中村正俊
福本伸敏 ★
松井明大 ★
森山光芳
山崎伸明 ★
山田秀之

Pianist

加藤大樹

Staff

佐藤敢太
白石正義
鈴木俊明
関 真悟
高橋一人
寺澤正博
内藤貴城/代表
星 満生/副代表
吉川大地

★定期演奏会実行委員

Links



website



facebook



X (旧 Twitter)



YouTube